

第202回 日本消化器病学会東北支部例会
女性医師のためのティータイムセッション

東北支部女性医師の勤務環境と 改善策に関するアンケート：結果報告

福島県立医科大学医学部
消化器内科学講座

片倉 響子、大平 弘正

日本消化器病学会 COI 開示

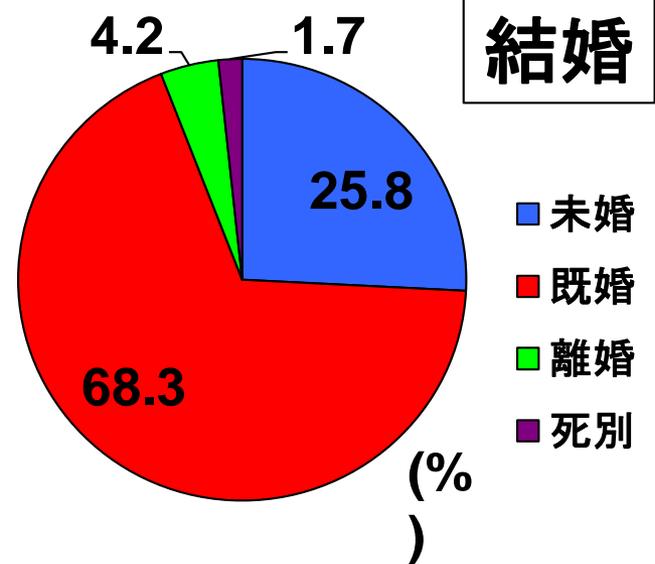
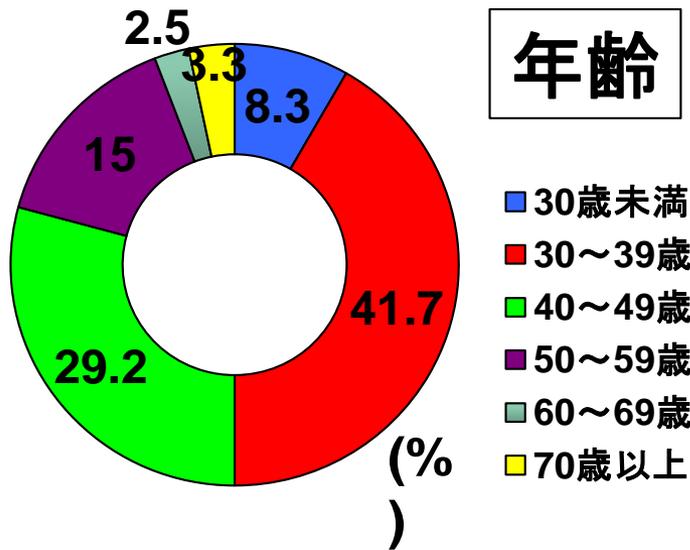
筆頭発表者名: 片倉 響子

演題発表に関連し、開示すべきCOI 関係にある
企業等はありません。

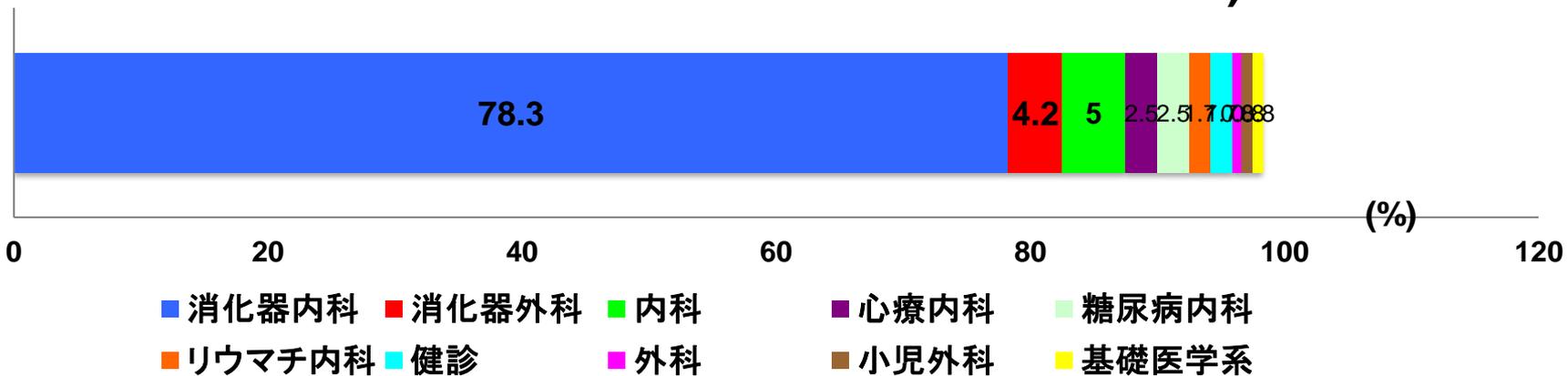
基本状況

[対象]

東北支部所属の女性医師223人、回収数120 (回収率53.8%)

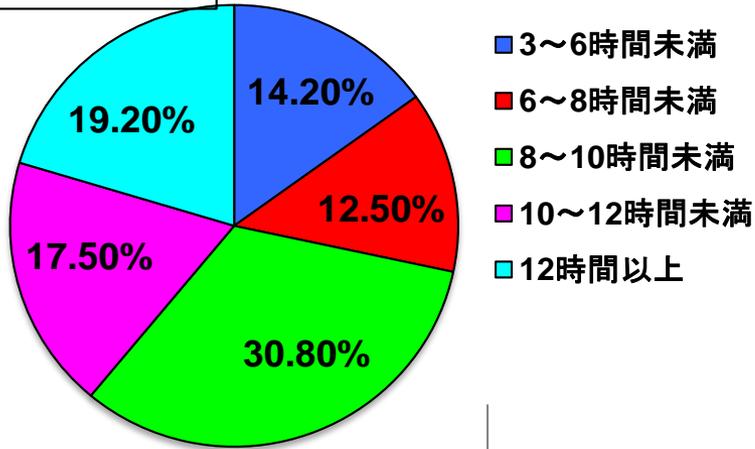


専門

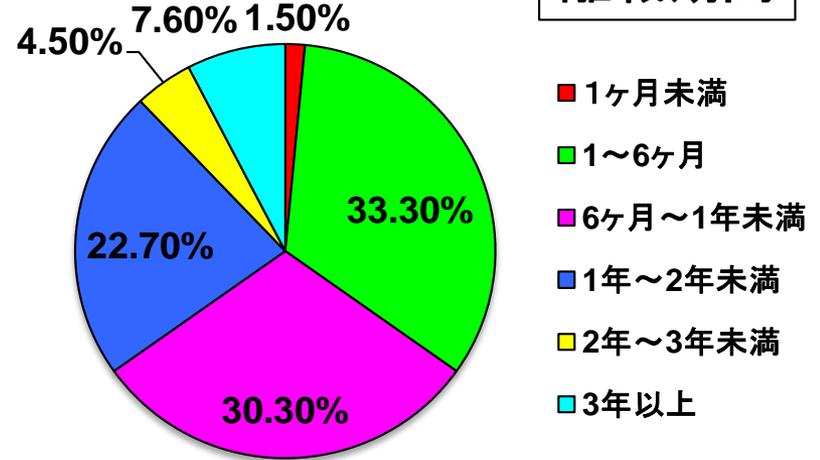


勤務状況

勤務時間



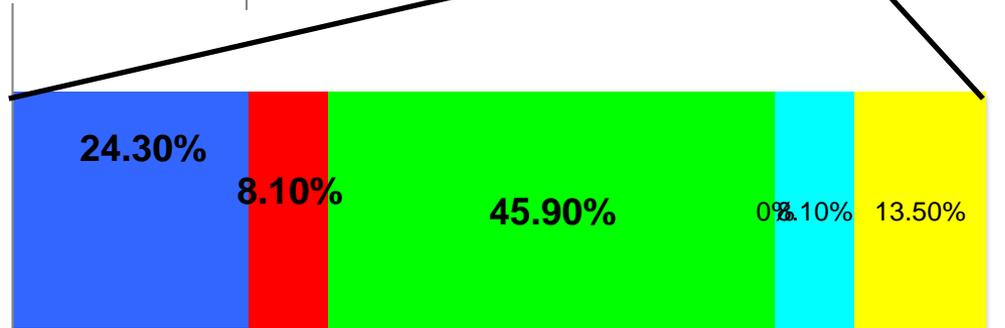
離職期間



勤務形態

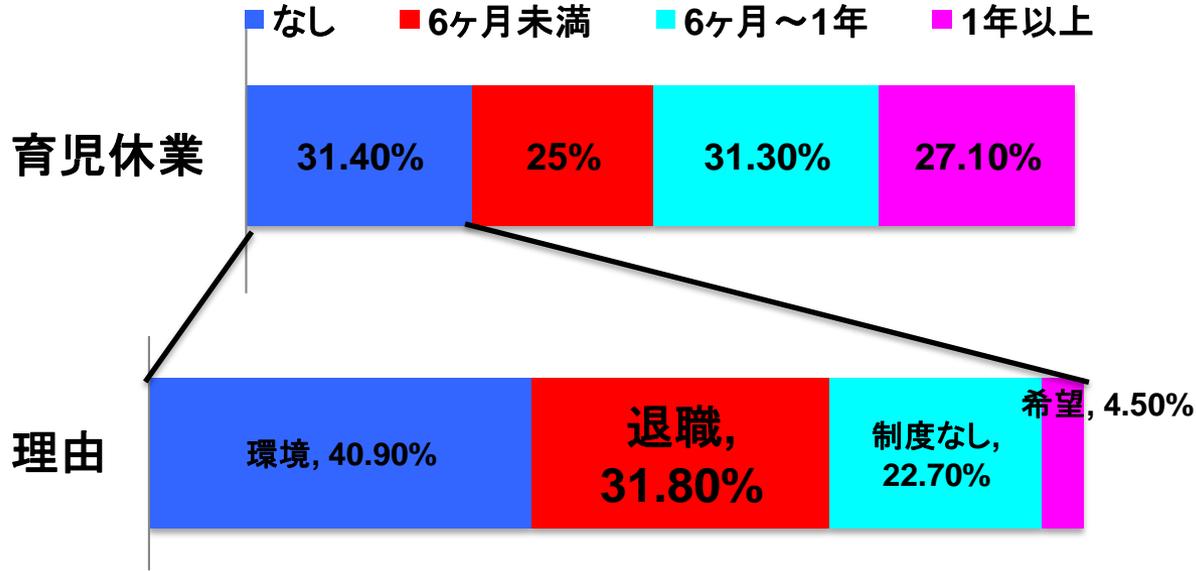


理由

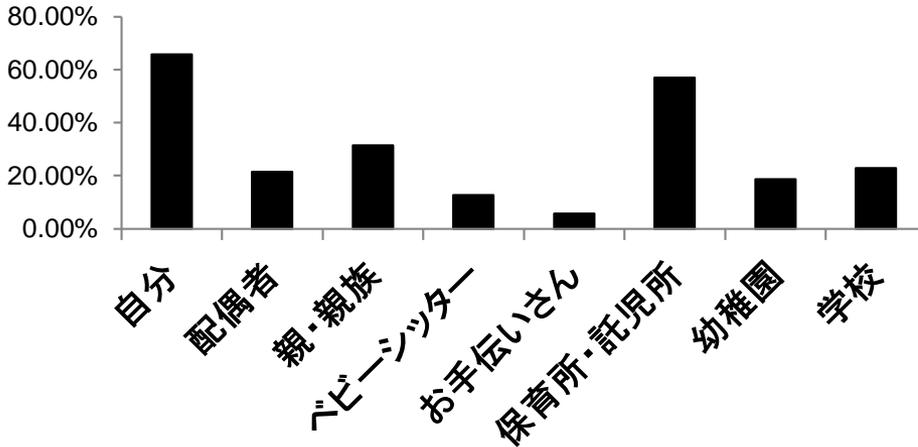


- 育児
- 家庭
- 育児と家庭
- 介護
- 雇用条件
- その他

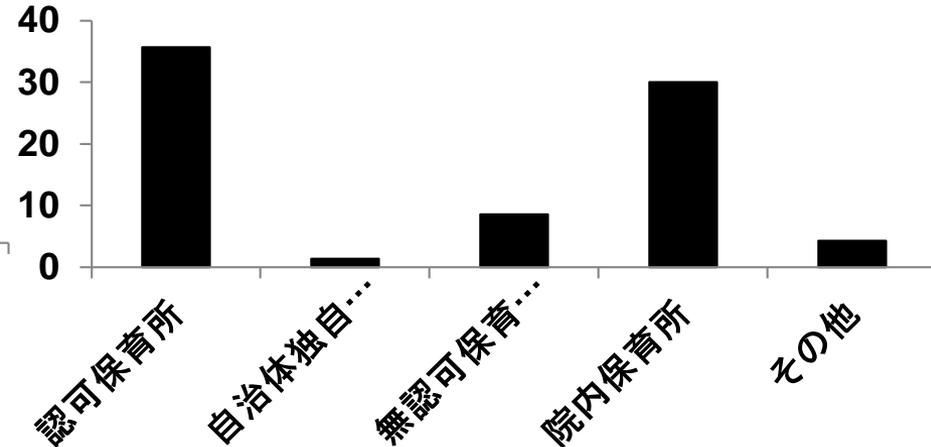
出産・育児期間の勤務状況



子供の面倒

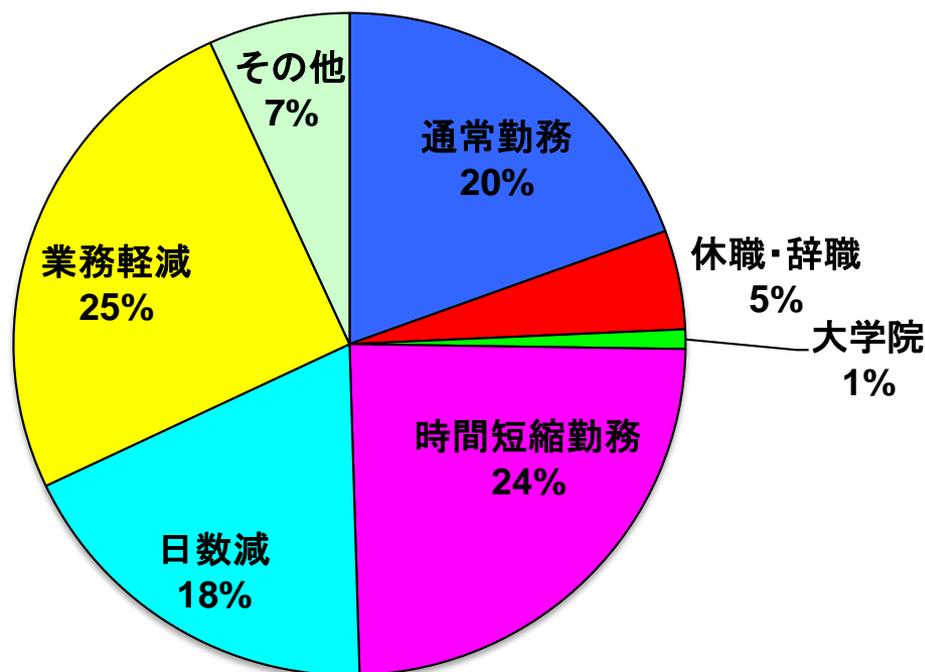


保育施設

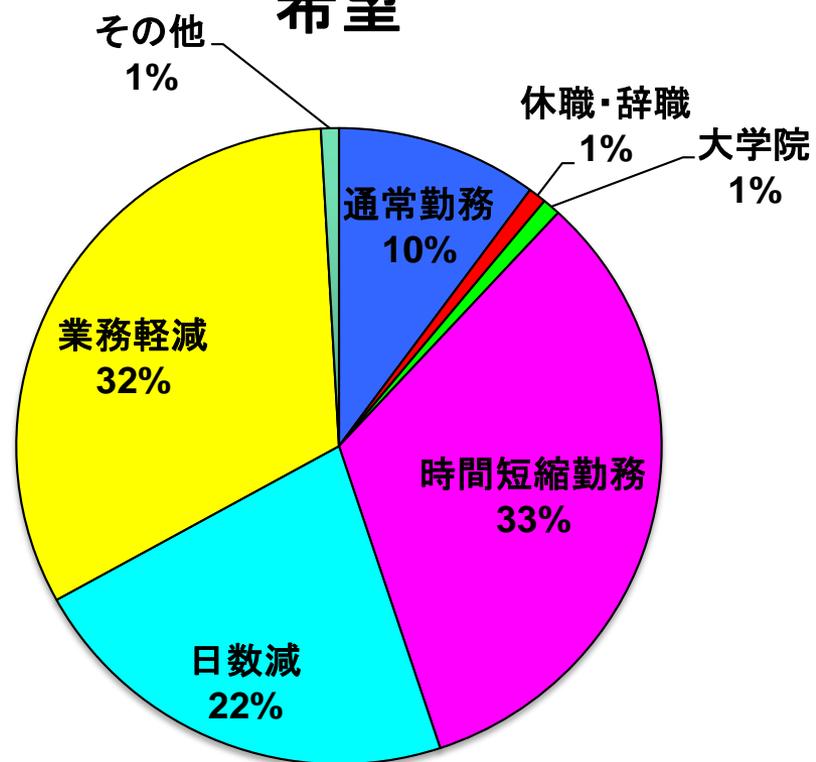


出産・育児期間の勤務状況

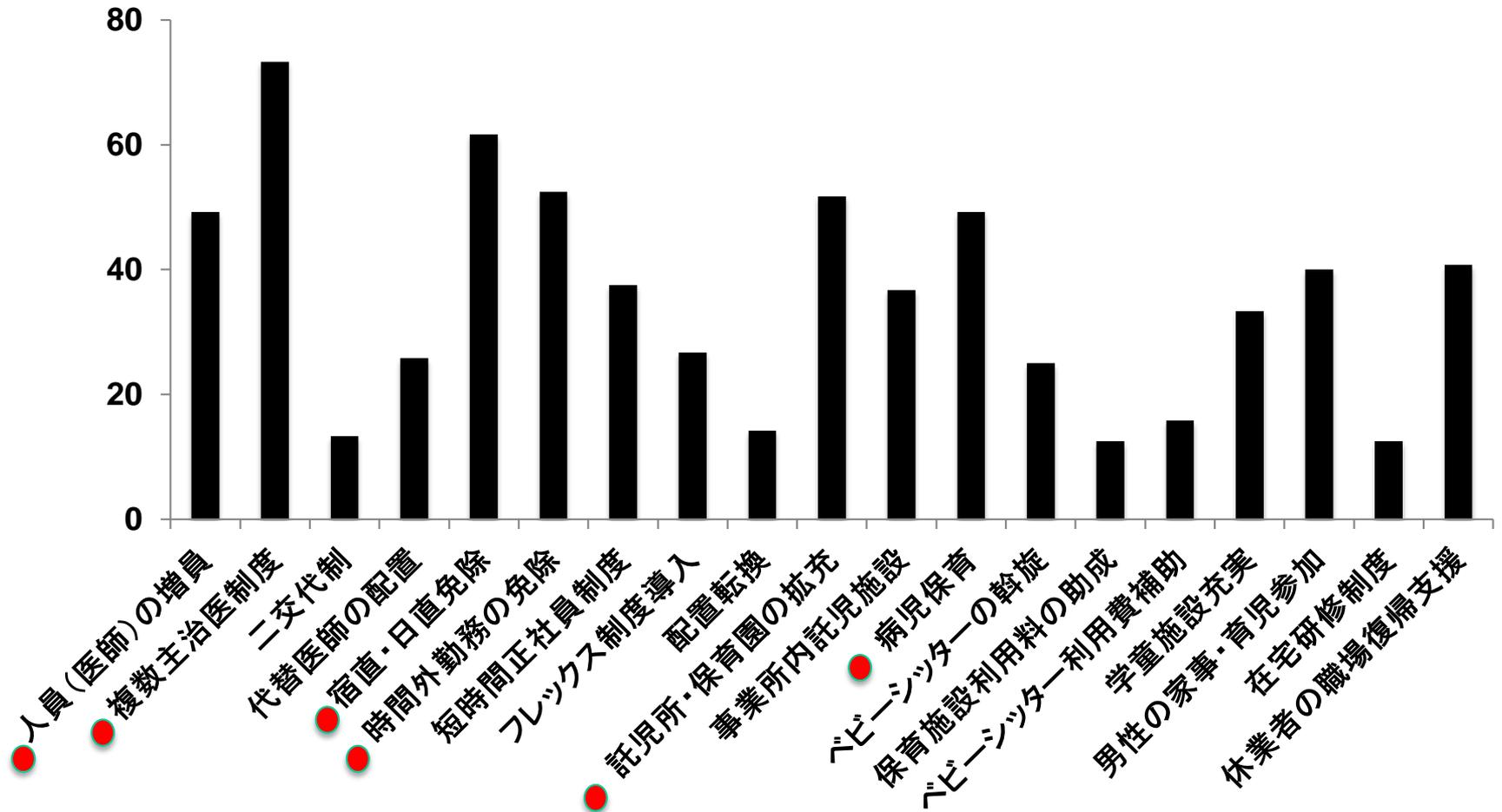
働き方



希望



仕事を続ける上で、必要な仕組み・支援



まとめ

- ・出産・育児の時期に仕事を継続できる環境づくり➡長時間勤務の改善、上司や同僚の意識改革
- ・専門医取得・維持、学会参加可能にする仕組みの提言
- ・医師、研修医の確保

東北支部女性医師の勤務環境と改善策に関するアンケート：集計

調査について

- (1) 実施期間 2016年10月1日 ～ 2016年12月31日
- (2) 調査対象 消化器病学会東北支部に所属する女性医師 223人に調査票を配布し、無記名で回答してもらい返送
- (3) 回収数 120 (回収率 53.8%)
- (4) 調査項目
 1. 基本状況
 2. 勤務状況
 3. 産前・産後の勤務状況
 4. 介護の際の勤務状況
 5. 職務上における男女差の内容と現状評価、職場環境の評価
- (5) 集計にあたっての注意点

集計にあたり、算出されたパーセントは小数第2位を四捨五入して小数第1位までの表示としているため、その合計がかならずしも100.0%にならない場合もある。また、集計に際して無回答数はのぞき、有効回答数のみにて集計するものとした。

今回は単純集計についてのみ考察しているが、自由記載欄に多数の意見が寄せられており、まとめて報告する予定である。

1 基本状況について

所属県：青森 15(12.5%) 秋田 13(10.8%) 岩手 14(11.7%)
山形 16(13.3%) 宮城 34(28.3%) 福島 21(17.5%) その他 7(5.8%)

1-1 あなたの年齢を教えてください

1. 29歳以下:10(8.3%)
2. 30～39歳:**50(41.7%)**
3. 40～49歳:**35(29.2%)**
4. 50～59歳:18(15.0%)
5. 60～69歳:3(2.5%)
6. 70歳以上:4(3.3%)

1-2 卒業後年数を教えてください

1. 研修医:0(0.0%)
2. 5年未満:9(7.5%)
3. 5～10年未満:24(20.0%)
4. 10～15年未満:33(27.5%)
5. 15～20年未満:23(19.2%)
6. 20～25年未満:10(8.3%)
7. 25年以上:21(17.5%)

1-3 結婚について教えてください

1. **未婚:31(25.8%)**
2. **既婚:82(68.3%)**
3. 離婚:5(4.2%)
4. 死別:2(1.7%)

1-4 1-3で回答が2,3,4の場合、配偶者は医師ですか(でしたか)?

1. 医師:69(77.5%)
2. 医師以外:24(27.0%)

1-5 同居している家族について教えてください。(複数回答可)

1. 独居:33(27.5%)
2. 配偶者:79(65.8%)
3. 親(義理を含む):14(11.7%)
4. 同居人(兄弟・姉妹を含む):3(2.5%)
5. 子ども:60(50.0%) [以下重複有ア.0歳児:10(8.3%)
イ.未就学児:31(25.8%) ウ.小学生:24(20.0%) エ.中学生以上:15(12.5%)]

1-6 現在の専門を教えてください

1. **消化器内科:94(78.3%)**
2. **消化器外科:5(4.2%)**
3. 病理:0
4. 基礎医学系:1(0.8%)
5. その他:内科 6(5%)、心療内科 3(2.5%)、糖尿病内科 3(2.5%)、リウマチ内科 2(1.7%)、健診 2(1.7%)、外科 1(0.8%)、小児外科 1(0.8%)

1-7 家庭内に介護を必要とされる方はいますか (いましたか) ?

1. いる:7(5.9%) 2. いない:112(94.1%)

2 皆様の勤務状況についてお聞かせください

2-1 勤務先の開設主体を教えてください

1. 国公立大学法人:24(20.0%) 2. 公的医療機関:34(28.3%) 3. 社会保険関係団体:2(1.6%)
4. 公益法人:6(5.0%) 5. 医療法人:26(21.7%) 6. 学校法人:4(3.3%) 7. 社会福祉法人:0
8. 医療生協:3(2.5%) 9. 会社:1(0.8%) 10. その他の法人:6(5.0%) 11. 個人 6(5.0%)

2-2 勤務形態について教えてください

1. 常勤:83(69.2%) 2. 非常勤(嘱託・パート・その他):28(23.3%) 3. 短時間正職員:3(2.5%)

2-3 職務時間はおおよそ一日あたり何時間になりますか?

1. 3~6 時間未満:17(14.2%) 2. 6~8 時間未満:15(12.5%)
3. **8~10 時間未満:37(30.8%)** 4. 10~12 時間未満:21(17.5%) 5. 12 時間以上:23(19.2%)

2-4 どのような勤務状況ですか?

1. 日勤のみ:61(50.8%) 2. 日勤と時間外勤務(宿直、日直、オンコール) :51(42.5%)
3. その他:2(1.7%)(具体的に: 育短勤務)

2-5 現在の職場の同じ科に所属する医師は何人ですか?

1. 5 人未満:55(45.8%) 2. 5~10 人未満:32(26.7%) 3. 10~15 人未満:16(13.3%)
4. 15~20 人未満:4(3.3%) 5. 20 人以上:13(10.8%)

2-6 勤務形態が常勤以外の場合、その理由について教えてください

(n=37)

1. 育児:9(24.3%) 2. 家庭:3(8.1%) 3. 家庭と育児:17(45.9%) 4. 介護:0
5. 雇用条件:3(8.1%) 6. その他:5(13.5%)

2-7 将来希望する勤務形態について教えてください

1. 常勤:64(53.3%) 2. 非常勤:18(15.0%) 3. 短時間正職員:21(17.5%) 4. 仕事をしない:5(4.2%)

2-8 仕事を中断(休職)、離職したことがある方に伺います。その理由を教えてください。

(n=65、重複有)

1. 自分の病気療養:8(12.3%) 2. 家族の病気や介護:2(3.1%) 3. 家事:1(0.8%)
4. **出産:52(80.0%)** 5. **子育て:35(53.8%)** 6. 夫の転勤に伴う:5(7.7%)
7. 留学:3(4.6%) 8. その他:1(1.5%)

2-9 仕事を中断(休職)、離職したことがある方に伺います。期間はどのくらいですか。

(n=66)

1. 1ヶ月未満:1(1.5%) 2. 1~6ヶ月:22(33.3%) 3. 6ヶ月~1年未満:20(30.3%)
4. 1年~2年未満:15(22.7%) 5. 2年~3年未満:3(4.5%) 6. 3年以上:5(7.6%)

3 3-1 から 3-9 は出産経験のある方だけお答えください

(n=70)

3-1 産前・産後休暇(産前6週間産後8週間)を取得しましたか?

1. 完全に取得した:43(61.4%) 2. 一部取得した:14(20.0%)
3. 取得せず一時休職または退職した:13(18.6%) 4. その他:0

3-2 育児休業を取得しましたか？

- 1 はい:48(68.6%) (6ヶ月未満:12(25.0%), 6ヶ月～1年未満:15(31.3%), 1年以上:13(27.1%))
- 2 いいえ:22(31.4%) (取得できる環境になかった:9(40.9%), 退職:7(31.8%), 制度なし:5(22.7%), 希望:1(4.5%))

3-3 普段、お子さんはどなたが面倒をみていますか (みていましたか) ? (複数回答可)

1. 自分:46(65.7%)
2. 配偶者:15(21.4%)
3. 親・親族:22(31.4%)
4. 友人・知人(0)
5. ベビーシッター:9(12.6%)
6. お手伝いさん:4(5.7%)
7. 保育所または託児所:40(57.1%)
8. 幼稚園:13(18.6%)
9. 学校:16(22.9%)
10. その他:3(4.3%)

3-4 保育施設をご利用の方は次のうちのどの施設を利用していますか？

1. 認可保育所:25(35.7%)
2. 自治体独自の認可保育所:1(1.4%)
3. 無認可保育施設:6(8.6%)
4. 院内保育所:21(30.0%)
5. その他:3(4.3%)

3-5 病気や予定外の保育が必要な時はどうなさっていますか (いましたか) ? (複数回答可)

1. 預ける:63(90.0%) [ア. 配偶者:11(17.5%) イ. 親・親族:60(95.2%) ウ. 友人・知人(0) エ. ベビーシッター:15(23.8%) オ. その他:9(14.3%)]
2. 欠勤:27(38.6%)
3. その他:5(7.1%)

3-6 職場からの緊急呼び出しの時はどうなさっていますか (いましたか) ? (複数回答可)

1. 預ける:38(54.3%) [ア. 配偶者:21(55.3%) イ. 親・親族:24(63.2%) ウ. 友人・知人(0) エ. ベビーシッター:3(7.9%) オ. その他:2(5.3%)]
2. 行けないので他の医師に依頼する:20(28.6%)
3. 断る:1(1.4%)
4. その他:15(21.4%)

3-7 学会、出張、当直の時は誰がお子さんをみてくれますか？

1. 配偶者:41(58.6%)
2. 親・親族:48(68.6%)
3. 友人・知人(0)
4. ベビーシッター:3(4.3%)
5. お手伝いさん(0)
6. 保育所または託児所:18(25.7%)
7. その他:7(10.0%)

3-8 子育て中の働き方はどうされました (していますか) ?

1. 変化なし(通常勤務):20(28.6%)
2. 休職・辞職:5(7.1%)
3. 研究生・大学院:1(1.4%)
4. 時間短縮勤務:25(35.7%)
5. 日数減:19(27.1%)
6. 業務内容軽減:26(37.1%)
7. その他:7(10.0%)

3-9 子育て中にあなたが希望した(する)働き方はどのようなものでしたか (ですか) ?

1. 変化なし(通常勤務):11(15.7%)
2. 休職・辞職:1(1.4%)
3. 研究生・大学院:1(1.4%)
4. 時間短縮勤務:36(51.4%)
5. 日数減:24(34.3%)
6. 業務内容軽減:35(50.0%)
7. その他:1(1.4%)

4 4-1 から 4-4 は介護経験のある方だけ、4-5 は全員お答えください

(n=11)

4-1 身の回りの世話(介護)は主に誰がされていますか (されてきましたか) ?

1. 主に自分:7(63.6%)
2. 自分以外の身内:5(45.5%)
3. お手伝いさん:2(18.2%)
4. それ以外:2(18.2%)

4-2 介護の際、休暇を取得したことがありますか？

1. 取得した:1(9.1%)
2. 取得しなかった:10(90.9%)

4-3 介護休暇中の身分保障はあります (ありました) か？

1. ある:3(27.3%)
2. ない:1(9.1%)
3. 分からない:5(45.5%)

4-4 介護休暇中に給与は支給されます（されました）か？

1. はい:3(27.3%) 2. いいえ:3(27.3%)

4-5 仕事と介護の両立を図る支援対策は？（複数回答可）

回答なし:38(31.7%)

1. 老人保健施設・特別養護老人ホームなど介護施設の増設・増床 0~20%程度:45(37.5%)
2. 人員（医師）の増員:36(30.0%)
3. 複数主治医制度の導入など主治医制の見直し:48(40.0%)
4. 二交代制の勤務体制:10(8.3%)
5. 代替医師の配置（代診医師派遣制度の導入）:19(15.8%)
6. 宿直・日直の免除:54(45.0%)
7. 時間外勤務の免除:58(48.3%)
8. 短時間正社員制度の導入・拡充:28(23.3%)
9. フレックス制度導入:21(17.5%)
10. 働きやすい部門への配置転換:14(11.7%)
11. 介護休暇取得者の職場復帰支援:24(20.0%)
12. 家政婦など利用者に対する費用の助成:21(17.5%)
13. 在宅研修制度:8(6.7%)
14. 介護休業取得者への職場復帰支援:8(6.7%)
15. 介護報酬の引き上げ、社会保障費の増額:12(10.0%)
16. その他 (0)

5 全ての方にお伺いします

5-1 女性医師として、どのような悩みをおもちですか？（複数回答可）

0. 無回答:9(7.5%) 1. **家事と仕事の両立:89(74.2%)** 2. プライベートな時間がな
い:52(43.3%) 3. 勉強する時間が少ない:58(48.3%) 4. 当直室・更衣室・休憩室などの施設
環境の不備:13(10.8%) 5. 男性主導社会:17(14.2%) 6. セクハラ:6(5.0%)
7. 配偶者の非協力・無理解:9(7.5%) 8. 配偶者の家族の無理解:5(4.2%)
9. その他:2(1.7%、休みがない、妊婦への配慮の不備)

5-2 同性の医師に対して不満を感じることがありますか？

無回答:8(6.7%) 1. ある:18(15.0%) 2. **ない:94(78.3%)**

- ・ 子育て中の女性医師が大変なことは理解できるが、その分の負担が他の医師にかかり疲弊してしまう。他の医師にもある程度仕事から離れる時間や休息が必要と思う。
- ・ 育児中は何でも許されるという態度はちょっと困ります。
- ・ 出産・育児を理由にコストパフォーマンスの高い仕事ばかりする人がいる。
- ・ 未婚であることを遠回しに避難されるような言葉を言われる。
- ・ 勉強意欲が低い。育児を言い訳にする。
- ・ 早く帰ることができるような努力をしない。
- ・ 性別に関係なく、子供がいると育児での休みを主張できるが、独身は負担を押し付けられやすい。
- ・ 子供がいない人に学校行事等の休みを理解してもらえない。
- ・ 独身や子供のいない女性医師に仕事の負担をさせるのは心苦しいが、実際に子供のいない人には子育ての大変さ、忙しさ、家事の大変さはわからないと思う。

5-3 男性の医師に対して不満を感じることがありますか？

無回答:8(6.7%) 1. ある:28(23.3%) 2. ない:84(70.0%)

- ・ 男性が子育てを理由に休むのは、という雰囲気や夫(医師)にも職場の男性医師にも感じる。
- ・ 妊娠する前の準備など、理解が得られない。
- ・ 育児期間中の残業・当直免除に対する理解が得られない。
- ・ 妊娠時にも当直が続き流産した。流産した後も休めず、配慮がなかった。
- ・ 上司はやはり男性医師に重要な仕事を任せる傾向あり。
- ・ 他の医師と同等の研究・学会活動を求められる。
- ・ 共働きの妻をもつ男性医師に対して、もう少し理解してほしい。
- ・ チャンスが飲み会での話で決まっている時がある。
- ・ 家事・育児を自分の仕事と思わず、女性の問題だと決めつけている。
- ・ 家事・育児中で大変でも、経験年数が少ないという理由で当番の回数を一番多くされた。
- ・ 夕方の会議が長い。

5-4 職場では女性医師の妊娠・出産・育児・その他に対し、仕事と家庭生活を両立させるための就労環境や規則などが整備されていますか？

無回答:4(3.3%)

1. 整備されている:54(45.0%) 2. 整備されていない:32(26.7%) 3. 分からない:30(25.0%)

- ・ 秋田県南は内科医不足が深刻で、常勤ではとても働けず、不妊治療もできる宮城に移り短時間正職員の仕事を続けた。

5-5 5-4 で整備されていると回答された方、それはどのような整備内容ですか？(複数回答可)

無回答:63(52.5%)

1. 休暇の際には代診医師を確保:15(12.5%) 2. 事業所内託児施設:38(31.6%) 3. 給与面で優遇(託児施設など費用手当等の支給):2(1.7%) 4. 勤務時間の短縮、残業、当直等の免除:48(40.0%) 5. X線被爆の回避:17(14.2%) 6. 法定外の産前・産後の休暇:6(5.0%) 7. 法定外の育児休業:4(3.3%) 8. さまざまな規則が定められている(0) 9. その他:2(1.7%)

5-6 職場環境は妊娠・育児に協力的ですか？

無回答:3(2.5%)

1. はい:66(55.0%) 2. いいえ:12(10.0%) 3. どちらとも言えない:39(32.5%)

5-7 配偶者のいる(いた)方へ、配偶者の家事・育児への協力は十分ですか(でしたか)？

無回答:36(30.0%)

1. はい:39(46.4%) 2. いいえ:23(27.4%) 3. どちらとも言えない:22(26.2%)

5-8 妊娠・育児中に、勤務時間の軽減は必要と思いますか？

無回答:2(1.7%)

1. 思う:105(87.5%) 2. 思わない:1(0.8%) 3. どちらとも言えない:12(10.0%)

5-9 妊娠・育児中に、学会参加は可能ですか(でしたか)？

無回答:21(17.5%)

1. はい:47(47.5%) 2. いいえ:23(19.2%) 3. どちらとも言えない:29(24.2%)

5-10 学会参加に際して困難がある場合、なにか解決策や参加を可能にするアイデアがあればお教えてください。

託児施設、学童託児、子連れ中継会場、学会ホテル優先、夫婦参加可能、講演のオンデマンド受講、TV中継参加、半日参加可能、1日単位セミナー

週末開催、東京開催、伴侶の助け、本人の意識の問題

5-11 仕事を続ける上で、必要と思う制度や仕組み・支援対策はどのようなことですか？

(複数回答可)

1. 人員(医師)の増員:59(49.2%)
2. 複数主治医制度の導入など主治医制の見直し:88(73.3%)
3. 二交代制の勤務体制:16(13.3%) 4. 代替医師の配置(代診医師派遣制度の導入):31(25.8%)
5. 宿直・日直の免除:74(61.7%) 6. 時間外勤務の免除:63(52.5%)
7. 短時間正社員制度の導入・拡充:45(37.5%) 8. フレックス制度導入:32(26.7%) 9. 働きやすい部門への配置転換:17(14.2%) 10. 託児所・保育園などの整備・拡充:62(51.7%)
11. 事業所内託児施設:44(36.7%) 12. 病児保育:59(49.2%) 13. 保育施設やベビーシッターの斡旋:30(25.0%) 14. 保育施設利用の際の保育料の助成:15(12.5%) 15. ベビーシッター利用の際の費用補助:19(15.8%) 16. 放課後における学童施設充実:40(33.3%) 17. 男性の家事・育児などへの参加:48(40.0%) 18. 在宅研修制度:15(12.5%) 19. 出産・育児休業取得者への職場復帰支援:49(40.8%) 20. その他(0)

ご協力いただき、まことにありがとうございました。アンケートの集計と検討結果は、日本消化器病学会東北支部のホームページに掲載し、第103回消化器病学会総会のキャリア支援委員会特別企画にて報告させていただきますのでご参照ください。

日本消化器病学会東北支部 女性医師の会
福島県立医科大学医学部 消化器内科
片倉 響子

6 最後に、どのようなことでも結構ですので、ご提案・ご意見があれば、ご記入ください。

- ・フルタイムで働けない女性医師でも歓迎という雰囲気はどの職場でも出てきてほしい。
- ・色々な地方への学会参加は楽しみだが、距離的・時間的制約があり困難。オンラインでの学会参加希望。
- ・環境整備も必要だが、女性医師側も男性医師への感謝と配慮が必要。
- ・専門医取得を考えているが、子供が大きくなると学会参加が十分にできないのではと悩んでいる。
- ・一人でも多くの女性医師に仕事を続けてほしい。
- ・産後、短時間だったが常勤で雇ってもらえた期間が専門医更新に不可欠だった。前任地は理解のある上司だった。ベビーシッターやお手伝いさんが確保できれば常勤に復帰したいが、お手伝いさんがいない。
- ・出産後、周囲の理解があり、内科外来勤務のみ継続している。それぞれの抱える問題が異なる

が、様々な働き方が可能であればよいと思う。

- ・ 育児期間中は、子供の年齢によって働きたい環境が変化していく。大学院や職場の異動など仕事内容も変化しやすい時期である。その時々にあわせ、相談可能な制度を作してほしい。
- ・ 制度も大切だが、理解と余裕も必要だと思う。
- ・ 産休・育休をとる際に申し訳ない、迷惑をかけるといった気持ちがある。もっととりやすい環境・風潮になることを願う。
- ・ 卒後48年の女医。環境改善し、より働きやすいベースを作してほしい。昔は、、今は、、というつもりはないが、子供を信じ、自分を信じて精一杯やれば素晴らしい仕事に自信が持てると思う。
- ・ 女性医師が活躍するためには男性にも家事・育児参加をしていただかないと互いに助け合う気持ちがあかないと思う。短時間でも仕事から離れずに続けるには、利用しやすい育児・家事サポートが身近にあり、利用しやすい金額であるとよい。
- ・ 複数主治医でも上司の理解がなければ年下の方だけが働くことになる。上司の理解が最重要。
- ・ 女性医師がキャリアを積む場合、他学部のように研究と教育に専念というわけにはいかず、子育て中は日常診療をこなすだけで終わってしまう。周囲が研究に専念できる環境がつかれたり、それなりの配慮や協力があって成し得るのでは？
- ・ 女性医師支援は、単に労働時間短縮などだけでなく、きちんと一人で診療できる医師に育てることも必要。外科でいえば、ある程度当番もできるように保育などを整備し、緊急手術などにあたる機会を（少しでも）得られるようにしていきたい。
- ・ 独身者や、既婚でも子供がいない場合だと、声をあげにくいですね。
- ・ 出産・子育てしながら勤務を続けるために、指導施設を離れざるをえず、専門医取得の必須期間が足りない。何らかの方法はないか？
- ・ 子供が病気のとき男性医師（夫）が休めるよう、職場が理解すること。
- ・ 性別にかかわらず、若い世代の面倒を避けたがる風潮や、少しのミスも厳しく叱責される寛容性の無さなどが、医師の偏在➡地域による医師数の格差につながるように感じる。
- ・ 男性医師と同等に当直や夜間当番ができないという理由で臨床を離れる女性医師がいるのはもったいない。部分的にでもその能力を活かせるような仕組みができればよい。
- ・ 出産後は週1、2回でも診療に関わっていくことが大事。子供に手がかかる時期は数年。長い医師としての年月からみればほんの数年だけ、業務の軽減と周りの理解をお願いしたい。支援・理解がなく、産後辞職すると、進歩の早い医学会に戻るのは困難であり、全体としても大きな損失と思われる。
- ・ 開業のほうが自由がききそうですが、勤務医時代のほうが学校行事への参加は楽だった。専門医の取得や維持については、出産・育児は結構なハードルになると思う。
- ・ 日常業務で女性として差別や優遇はない。性別を気にせず、個性を活かして働いてほしい。
- ・ 育児中のDr.のために、既婚・子供なしの女性医師の仕事の負担が増えることがある。これはどう折り合いをつけていくのですか。
- ・ 多くの病気は自己責任である点を患者教育し、予防医学中心の医療であれば、当直・時間外の医師負担は大幅に減るはず。
- ・ 医師の世界はやはり男性主導であると思う。その中で女性医師が増えてきているので、性別の問題だけでなく、個々人の資質、家庭環境、体力なども考慮した勤務体制が求められる。
- ・ 公立の保育園は収入で保育料に差があり、不満を感じる。

- 仕事を多く抱える人間になおさら仕事がまわってきやすい。仕事を抱えていない人には仕事がまわらないといった仕事量の格差を感じる。
- 妊娠で大学病院を退職したが、出産後条件のあう病院がなく仕事ができなかった。大きな病院ほど仕事がしにくい環境だった。今は女性医師が多くなり集団で意見を言えるようになってるので、もっと主張した方が良い。
- 日本全体が男性も子育て・家事に参画すれば、女性は必ず楽になるし働ける。女性の働き方も大事だが、男性医師のワークバランスも一緒に考えなければ根本的に改善・解決しない問題である。『女性医師の会』ではなく『医師のワークバランスの会』として再検討すべき。
- 仕事も家庭も中途半端にしたくない思いがあり、どちらかが上手くいかないと、もう片方を100%切ってしまいたくなる。
- 独身・子供なしで休みなく働かざるを得ない状況下で、プライベートを持つ余裕がないのが現状。結婚したくないとかできないわけではなく、時間と心の余裕がなく踏み出せない人もいることを知ってほしい。
- 性別に関係なく働き続けられるかは家族の理解が大きいと思う。
- 病院内と医局、医師皆さんの理解が必要。残念だが「突然子供ができたからといわれて困る」「お前はそういうふうになるな」とおっしゃる方もいる。慢性的な人員不足のためと思われる。
- 実家の助けがなければ仕事を続けられなかった。公的な助けがないと学生さんは不安に思っているように感じられる。
- 女性医師勤務環境改善策は女性だけでなく男性も一緒に医師全体の問題として考えていく必要がある。労働基準法は、医師の場合24時間対応という仕事柄、完全に適応させるのは無理としても、せめて当直の代休は実際にとれるとよい。
- 未就学時は保育施設がみてるが、学童保育施設についてはまだ完備されていない。核家族でオンコール、夜勤は困難。親が近くにいるかが大きく関与する。当直・待機手当を上げて、当直医の不満を少しでも減らしていけると良いと思う。
- 非常勤で勤務している間にスキルが落ち、以前のポジションに常勤として戻ることが難しい現状。産業医や健診業務に方向転換し常勤勤務をする選択も考慮中。そのような就職斡旋があると良い。
- 病児保育の充実希望。
- 男性、女性関わらず、長時間勤務が常態化している。医師の勤務自体の見直しが必要。
- 育児中は短時間正社員制度があってほしい。子供の成長や家庭事情によって働き方を変えられるような柔軟な仕組みや相談できる部署が職場にあるとよい。
- 大きな学会には託児所があり助かる。支部会は全く参加できない。小学生になると託児所の利用ができなくなるので、専門医維持のための学会およびセミナーの参加ができるか不安。
- 内視鏡など技術を要する場合には、復職前に練習できる環境があるとよい。
出産・子育てしながらバリバリ仕事をするためには、①なるべく休職せず、育休のみで早く仕事に復帰する。②仕事の忙しい方との結婚は考えない方がよい。③自分や配偶者の両親に全て任せられる環境を作る。とにかくいろいろな人の助けがないと無理です。